

第38回

名古屋大学附属図書館友の会トークサロン

参加無料
申込不要
会員以外の方
も歓迎します

ふみよむゆふべ 『武功夜話』を読む

— 戦国軍記としての家伝記 —

かたり：松浦 由起（国立豊田工業高等専門学校教授）

『武功夜話』は、愛知県江南市の吉田家(旧前野家)に伝わる家伝記で、織田信長、織田信雄、豊臣秀吉に仕えた前野家一族の古記録です。江戸時代には庄屋であった吉田家には、庄屋文書のほか、種々の書簡、家系図、前野村由来記、日次記、歌集のほか、他所から借りて書写した本など、膨大な文書が伝わっています。『武功夜話』についても数種類あり、代々の当主によって増補改訂がなされてきました。『武功夜話』の中の記述によれば、寛永期に、当時の吉田家当主、吉田雄翟(かつかね)が書いたとされますが、幾種類もある写本のすべてがそうであるとは考えられませんし、筆跡も異なります。『武功夜話』は、先祖の武功を語る一家の伝承が、「語られたもの」として、各時代を経て残っている稀有の例でもあり、文化史的な価値も大きいと思われまます。

戦国期を題材とし、近世に成立した近世軍記は数百種類もあるにもかかわらず、『信長公記』『太閤記』以外は、あまり文学研究の対象とされてきませんでした。『武功夜話』についても、史実かどうかばかりが議論され、文学作品としてはほとんど研究されていません。歴史家の間では、偽書説もあり、歴史史料の古記録として扱うには、本格的な史料調査、史料批判もできていませんが、内容がおもしろいので、津本陽『下天は夢か』、遠藤周作『男の一生』などの歴史小説の種本となっています。

今回は、『武功夜話』がどのような本かをお話するとともに、その中の、おもしろい場面について紹介したいと思います。



【『武功夜話』関係資料の一部】
吉田家所蔵

2016年10月18日(火) 午後6時～

名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスクエア

名古屋大学附属図書館友の会

TEL 052-789-3666

FAX 052-789-3693

E-Mail tomo@nul.nagoya-u.ac.jp

URL <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

(後援)

名古屋大学附属図書館,
同研究開発室

